

もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	平成 30 年 10 月 12 日（金）午後 6 時～ 午後 8 時 10 分			
開催場所	岩手県立大学 共通講義棟 305 講義室			
出席者	天 沼 久 純	田 山 俊 悦	櫻 裕 子	中 野 孝之助
	鈴 木 一 夫	鈴 木 礼 子	細 川 光 正	鈴 木 努
	守 谷 祐 志	宮 川 寿	村 上 貢 一	高 橋 重 幸
	庄 子 春 治	佐 藤 栄 一	村 田 芳 三	遠 藤 政 幸
	浅 沼 克 人	後 藤 百合子	熊 谷 喜美男	
	岩手県立大学学生 14 人			

【開催内容】

田山俊悦議員の司会進行により、天沼議長の挨拶の後、ワールドカフェ方式による「あなたが地域で大活躍するために」をテーマに、下記の 3 項目を題目にして意見交換を行った。

- ① みなさんは普段どのような活動をしていますか。
- ② あなたが理想とするボランティア活動・地域活動とはどのような活動でしょうか。
- ③ 理想の活動をするためにこれからあなたがしたいことは何ですか。

○意見交換の中で参加学生から出された意見（心に残った言葉）と感想

- ・信念を忘れずに行動する。
- ・人の輪を広げ、視野を広げる。
- ・誰かに提案しても聞いてくれないなら、自分でやっておもう。
- ・多くの場所、行ったことのない自分の未知の世界に飛びこむことが人とのつながり、輪を広げていく。何をするにも楽しんですることで長続きする。
- ・公共交通機関の充実についてグループ内で話ができて良かった。
- ・「近助」を忘れずに継続して活動していく
- ・ボランティアや地域活動など、地域活動の意義について考える機会になった。
- ・ボランティア・地域活動の理想をグループで考えたとき、一方的なボランティア(お手伝い)といった感覚ではなく、受け入れ先と相互扶助する関係というワードが印象的だった。
- ・近所（近助）付き合いの輪を広げる
- ・ボランティアでも参加することで楽しみ、学ぶことができればいい。

- ・参加した学生がインターンやボランティアを積極的に取り組んでいて尊敬した。
- ・今日の参加者はみんな人によって生きてきた時間は異なるけれども、それでも似たような志を持っていて、岩手を良くしたいという気持ちは変わらないと感じた。
- ・学生は学生の中だけで完結せず、もっと大きく巻き込むことができれば色々なことができるのではないかという気分にさせられた。
- ・必要なのは色々な人とのつながりであることに気付かされた。
- ・今できることを一つ一つ積み重ねていくことが大切。
- ・人の話を聞くことの大切さや、人と「ふれあう」ことの素晴らしさを感じた。

○意見交換の中で参加議員から出された意見（心に残った言葉）と感想

- ・学生に「議員とは20年先の社会をつくる人」と言われ肝に銘じた。
- ・「理想とするボランティアとは何か」が奥の深い題目だった。
学生の取り組みや考えには感心した。これからの時代も捨てたものじゃないと感じた。
- ・災害や地域の活動には、自然に輪が広がるボランティアの輪が必要であり、地域の輪が今後の課題と考える。近所のコミュニティを大切にしていきたいと感じた。
- ・最大のボランティアは「消防団」と考えており、参加者にも関心をもって頂きたい。
- ・地域活動の一環で「DONABENET」という学生と地域の人たちが鍋を囲んで交流する活動を行っていることに感心した。
- ・「理想とするボランティア活動とは、自分も楽しく相手も楽しく人とのつながりができる活動」という発言が心に残った。
- ・県立大学の学生と初めて身近に対話できてうれしかった。
- ・どの学生も真面目でしっかり自分をみつめていると感心した。
- ・ボランティア活動を自分の楽しみとして受けとめていることに感動した。
- ・学生の興味の広がりがとても望ましく感じた。
- ・県立大生の若い行動力、パワーに感心した。
- ・ボランティアは「楽しい」、「よろこぶ」、「ひろがる」活動である。
- ・学生が中学生の頃からボランティア活動をしている事に感心した。
- ・自分が今住んでいる所をもっと便利にもっと暮らしやすくしたいと思う気持ちは議員も学生も共通であると実感した。普段と違う感動があった。
- ・公共交通の充実を図る
- ・美術系大学の創設
- ・ボランティア活動を通じた地域のつながり
- ・現場に行くことの大切さ
- ・盛岡の福祉は充実している
- ・eスポーツについて
- ・社会福祉協議会に入りたいと話している学生がいた。
- ・ボランティアは地域活動に内包されたものである。

- ・学生達がボランティア活動を通じて新しい人とのつながりを広げ、新しい体験と自分も楽しく他の人にも喜ばれている活動を行っているということ、そのことが自らの成長につながっているということ、とてもすばらしい体験をしていることを頼もしく思った。もっと多くの体験をして将来につなげてほしい。若い人たちのエネルギーを大事にしていきたいと思った。
- ・盛岡を良く知ることによって故郷を離れてもいつか帰郷できる様に学生生活を支援していきたい。そのことで関係人口の増加につなげていくことになる。
- ・ボランティア活動を支える行政力の大切さを感じた。
- ・ボランティアは楽しい活動でなければ継続できない。オンオフの切り替えが必要である。
- ・街の基本はサロン活動などのコミュニティにある。
- ・町内活動を知って活動するには回覧板など活用して欲しい。
- ・若い大学生も真剣にボランティアというものを考えて取り組んでいることがわかった。若い人達が間違えないよう指導して、将来の日本の発展につなげるべきである。災害の多い日本であるため、こういった人材の育成が大事であると感じた。
- ・「ボランティアとは」一言では言えないと思う。自己実現のひとつではないか。自分らしく、そして、周りの人々も自分らしく生きる為に行うものである。
- ・ボランティアは互いに Win-Win を感じれば自走し周りも協力していく。ネットワークの形成と何より楽しくあることが重要である。
- ・ボランティアはプロセスが重要であり、思いを共有・共感できることが大事。
- ・「理想のボランティア活動とは」理想と言ってもどこか知らない所にあるのではなく、現場にある。災害時に広島に行った。行って見ると一人一人違う悩みや対応がある。それに対応できるのが理想の活動であり、議員も同じだと考える。
- ・「これからすべき活動とは」人として助けあって生きる事。ボランティアもそうだが日常の生き方すべてにおいてそうである。その意味で自分の地域や住んでいる所で隣近所の付き合いをしたい。
- ・「学生間を通じたネットワークの創造」学生・若者世代との対話の大切さを再確認した。学生官連携の強化が必要ではないか。

○学生アンケート自由記載欄

- ・貴重な体験となりました。ありがとうございました。
- ・普段話す機会のない議員の方々から、様々なお話を聞くことが出来てとても勉強になると同時に楽しかったです。ありがとうございました。
- ・議員の方々だけでなく、学生も含め様々な人と交流を深めることができ、とても充実したミーティングでした。
- ・自分にはなかった視点や貴重なご意見を頂き、本当に参加して良かったなと思いました。また機会があれば参加したいと思います。
- ・普段経験することがなくとてもいい刺激になった。
- ・非常に楽しくお話できました。もし可能であれば、ボランティア情報をお持ちくださいればボランティアセンターで対応可能ですので、ご検討よろしく申し上げます。

○参加議員の所感

①参加しての所感

- ・参加してくれた学生の皆さんが真剣に取り組んでくれたことが好感的だった。これは、学生の皆さんだけではなく、大学としての姿勢ではないかと感じた。
- ・自分の子どもより若い人たちだったが、年齢差を感じることなく意見交換できたと思う。
- ・ワールドカフェでの議論が良かった。学生の皆さんも「発表がないのは気が楽で良い」と話していた。
- ・初対面でありながらも楽しく意見交換が出来たのもワールドカフェ形式のおかげと感じた。
- ・このような場をさまざまところで多くもてれば相互理解が進むであろうし建設的な行動につながると感じた。
- ・初めて県立大学生と意見交換したが、同じグループの学生は言葉がはっきりしていてすばらしかった。
- ・事前にテーマについて理解してから参加するべきであった。

②意見交換の内容やテーマについての所感

- ・ラウンド3の「理想の活動をするためにあなたがしたいことは何ですか」の問いには一瞬戸惑いがあった。
- ・手間がかかるので難しいとは思いますが、テーマは議員、学生双方から出し合い、共通するテーマを探すものの一つの考えではないか。
一致するものがない場合は、学生の皆さんからのテーマから選定しても良いのではないか。
- ・今年は災害が多かった年だったので被災地ボランティアにかける若い人たちの意見が聞けて良かった。みんな積極的に施設で参加しているのを聞いて感心した。
- ・話の展開の仕方に難しさを感じた。

③意見交換の中で出された意見についての所感

- ・実際にボランティアを経験しての実践的な内容もあって良かった。
- ・学生がとてもフレッシュで良かった。
- ・ボランティアは困っている人に手を差し伸べる、困っている人を助けるといった意味合いでの理解が強いと思われるが、ボランティアを通じて、自分としての新しい発見があったとの意見が印象的であり、ボランティアに対する考えの幅が広がった。
- ・アルバイト的な発想ではなく、本当に日本の発展や世界の発展を考えていて、世界の復興を考えているようであった。これからも応援していきたい。